

37. 大学生における慢性頭痛の実態について

内科学(神経), 作新学院大学

星山栄成, 辰元宗人, 小林映仁, 鈴木紫布,
平田幸一, 松本秀彦, 諸富 隆

【目的】大学生における慢性頭痛の特徴を調査し, 慢性頭痛のもたらす学生生活への影響, 頭痛への対処法を把握することを目的とした。

【対象と方法】大学生1760人を対象とし, 頭痛についての質問表を配布・回収した。

【結果】有効回答数は1,759人で回収率は99.9%だった。有病率は33.7%だった。国際頭痛分類第1版改変の診断基準を満たす「前兆のない片頭痛」6.3%, 「前兆のある片頭痛」1.4%, 「緊張型頭痛」21.4%だった。学業への影響があるのは, 片頭痛31%, 緊張型頭痛5%であった。頭痛の対処法としてすぐに薬を飲むのは, 片頭痛49%, 緊張型頭痛18%だった。医療機関の受診率は, 片頭痛20%, 緊張型頭痛10%だった。

【結論】大学生は頭痛に対する認識が低いいため, 就職後の生産性を考慮し, 慢性頭痛に対する教育を行っていくことが大切である。

39 Dysplastic definitive hematopoiesis in *AML1/Evi-1* knock-in embryos.

内科学(血液)

牧 和宏, 三谷絹子

【目的】白血病関連キメラ遺伝子AML1/Eviのマウス個体における機能の解析

【方法】AML1/Evi1ノックインマウスを作製・解析する。

【結果】AML1/Evi1ヘテロマウスは成体型造血の欠如のため胎生致死となったが, 胎仔肝には高い自己複製能を持つ造血前駆細胞が認められた。In vitroでの分化実験により, これらの前駆細胞は骨髄球系及び巨核球系細胞への分化能を有するが, 赤芽球系へは分化不能であることが示された。胎仔肝細胞における造血系転写因子の発現を解析した結果, AML1/Evi1ヘテロマウスではPu.1の発現が保たれているのに対し, AML1ノックアウトマウスでは著しく低下していることがわかった。成体型造血の造血前駆細胞の発生にPu.1の発現が重要な役割を持つ可能性が示された。